

古事類苑

動物部四

名鼠
稱

〔本草和名_{十六}〕牡鼠矢、一名唐鼠、一名鼴_音、一名易腸_{已上出_二一}、一名仲也、百歲以上者、和名乎禰須美。

〔倭名類聚抄_{十八}〕鼠

四聲字苑云、鼠

昌興反、和

毛群名

名

羅須美

穴居小獸種類多者也。

〔箋注倭名類聚抄_七〕下總本有和名二字、谷川氏曰、蓋寢盜之義、按說文云、鼠穴蟲之總名也、象形、漢五行志云、鼠、盜竊小蟲、夜出晝匿、爾雅翼云、鼠穴蟲之點者、其種類極多、李時珍曰、鼠形似兔而小、青黑色、有四齒而無牙、長鬚露眼、前爪四、後爪五、尾文如織而無毛、長與身等。

〔類聚名義抄_十〕鼠

鼠今正、音暑、子ズミ、或ソ

鼠舉鼴鼠四俗、

〔八雲御抄_三〕鼠

あなねすみ

月のねすみ子細在_二他卷、本文也、世無常也、

〔日本釋名_中〕鼠

ぬすみ也、ぬとねと相通す、ぬすみするけもの也、

〔東雅_{十八}〕鼠子ズミ、義不詳、大己貴神、素戔烏神のまします根堅洲國に參り給ひしを、其大神鳴鑄を大野之中に射入て、其矢を執らしめて卽火をもて其野を廻らし燒給ひしに、鼠來りをしへまいらせしまゝに、其處を踏落して、隠れ入り給ひし間に、火は焼過にけりといふ事、舊事紀、古事記に見えて、倭名鈔には、四聲字苑の鼠は穴居小獸也といふ注を引けり、さらば子ズミといふは、子とは猶根堅洲國などいふが如く、幽陰之所をさす也、スミとは栖也、其穴居するを云ひしなるべし、古語に子と云ひしに、幽陰之義ある也、草木の根を子といふが如きも、寝を子と云ひ、眠を子といふが如き、並に是也、或人之説に、子スミとは、又スミの轉語也といふ也、大朴の世の子